筆記課題

筆記課題

「大工用工具の取扱い」

|  |
| --- |
| 注意事項  １：制限時間　40分  ２：注意事項  （１）　指導員の指示があるまで問題は見ないでください。  （２）　解答用紙に入所期、番号、氏名を記入してください。  （３）　机の上には筆記用具以外のものは置かないでください。  （４）　携帯電話の電源は切るか、マナーモードにしてください。  （５）　試験中、質問がある場合は挙手してください。ただし、問題の内容に関する事については答えることができません。 |

以下の各問いについて、文章が正しいものには○、誤っているものには×を解答欄に記入しなさい。

１） さしがねの目盛りには、表目・裏目・丸目がある。

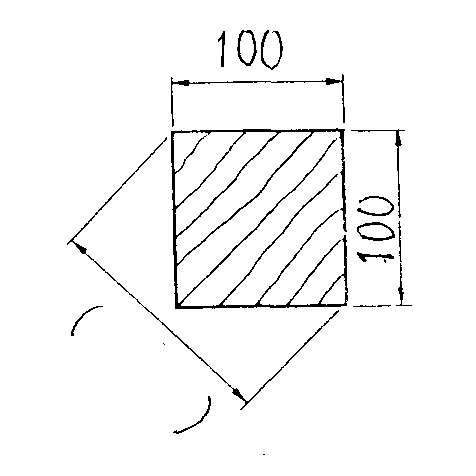
２） 通りの良い材料では、さしがねを使用して直角な墨線を引く場合が多く、さしがねの長手側10cmくらいの位置を握り、材料の縁にあてがい、つま手側で墨線を引く。

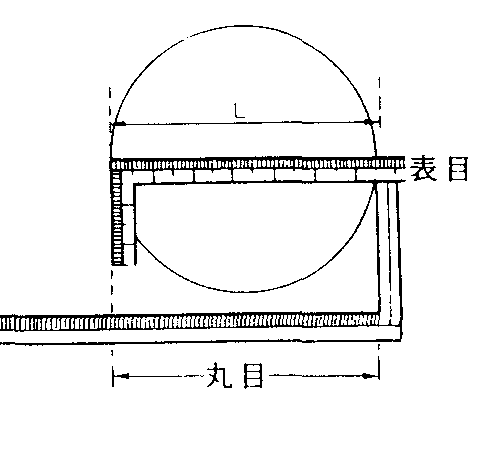


長手

つま手

３） 図のように、1辺が100mmの四角形に対し、太線の部分をさしがねの裏目を使って計測すると、141mmの値を示す。



４） 図のように、さしがねの丸目を使って計測すると、円周を測ることができる。

５） こう配（勾配）は水平に10移動したときに、垂直にいくつ上がる（下がる）かで表す。

６） 加工墨とは、木取りした部材の上下や左右などを取り間違え加工しないように、使い勝手の印をつけることである。

７） 墨つぼは、長い材面や湾曲した材面などに長い直線を正確に引くことができる道具である。

８） 下図のような墨さしを利用して直線を墨付けする場合、（ｂ）の部分で線を引くとよい。



（ａ）

（ｂ）

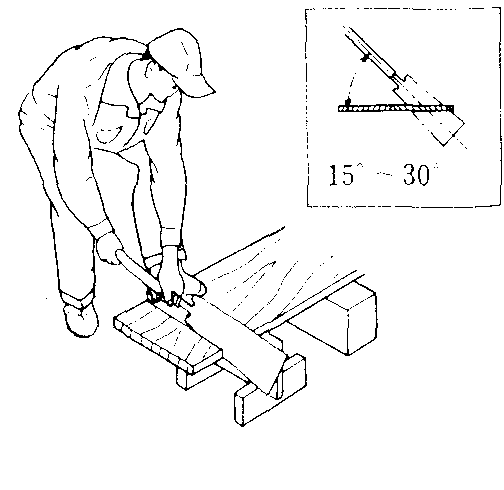
９） 下図のようなのこぎりの歯は、（ａ）が縦引き用で（ｂ）が横引き用である。

（ａ）

（ｂ）

１０） 図のように、板材を両刃のこぎりで切断する際は、縦引きを使う。



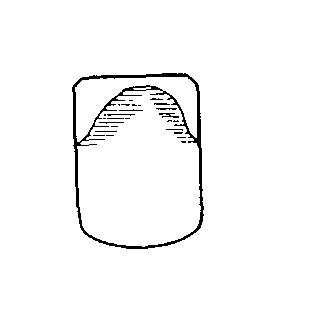
１１） のこぎりは、柄尻と柄頭をにぎるが、特に柄頭は強くにぎる。

１２） のこ引きの引き始めは、のこぎりがぶれないように、刃先に指先をぴったり合わせるとよい。

１３） のこ引きをする際、のこぎりを引くときは、のこ身いっぱいに適度に力をいれて引き、かえしは力を抜いて戻すとよい。

１４） のこ引きの引き終わりに近づいたら、切り落とし部分を押さえ、ゆっくり引く。

１５） 裏押しをする際は、中砥石を使用する。

１６） 研ぎをする際、砥石をしっかりと固定する。

１７） かんな刃が右図のような状態になったものを裏切れという。

１８） かんな刃を研ぐ際、かんな刃を押すとき力をいれ、引くときは力を抜く。

１９） 刃を研ぐ際、砥石は事前に水につけ、水分を含ませておくとよい。

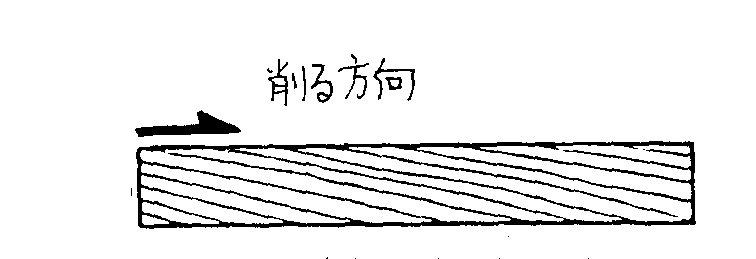
２０） 砥石はできるだけ幅をいっぱいに使う。

２１） かんなを裏押しする際は、金剛砂を使用する。

２２） かんな刃を研ぐ際は、かんな刃にもよく水をかけておくとよい。

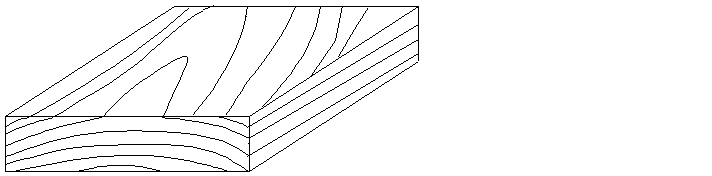
２３） 二枚刃かんなにおける裏金は、かんな刃の刃裏先よりわずかに引っ込み加減になるように合わせる。

２４） かんな削りを行う際、図のような向きに削ることを順目（ならいめ）削りという。



削る方向

２５） 図の太線で囲まれた面を木裏という。



２６） 板材は、乾燥すると図のように変形をおこす。



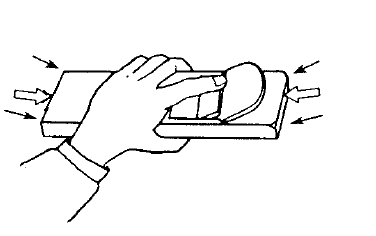
木口面

２７） かんなの各部の名称において、A部は、台頭である。



A部

２８） かんな刃を抜くときは、②の部分をたたき、取り出す。

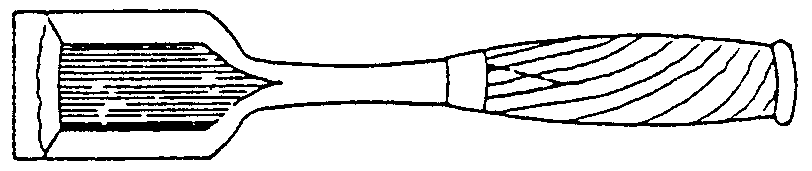


②

①

２９） の種類によって刃先角度をかえるが、向こうまち＞追入れ＞薄の順に刃先角度を大きくとる。

３０） の各部の名称において、A部は、冠（かつら）である。



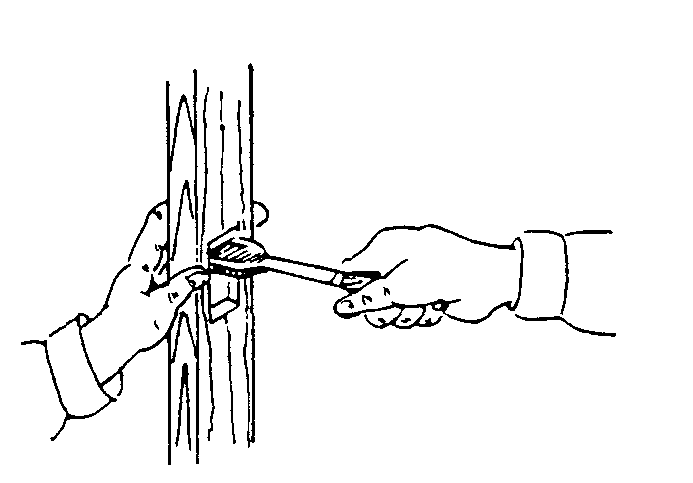
A部

３１） 追入れは、げんのうで叩いて使うたたきである。

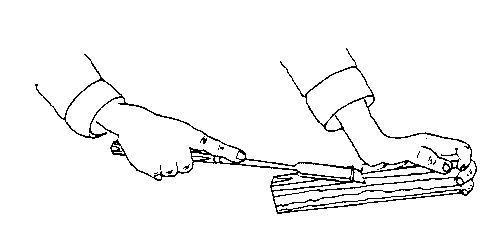
３２） ほぞ穴掘りをする場合、材料にまたいでは腰掛けない。

３３） 通し穴を掘る際は、垂直になるように、片面から掘り進める。

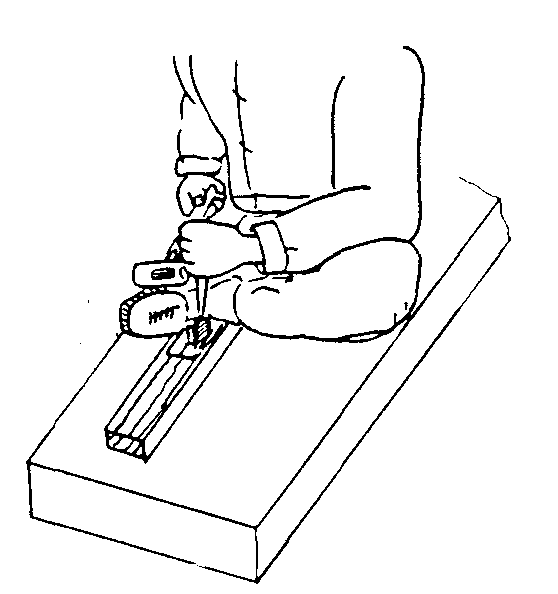
３４） 図のような、の使用方法は適切である。



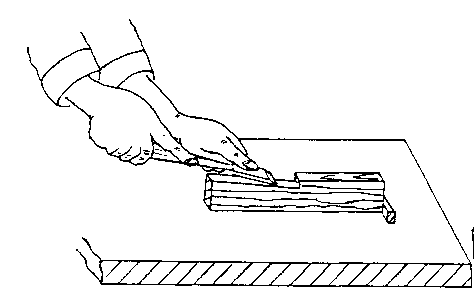
３５） 図のような、の使用方法は適切である。



３６） 図のような、の使用方法は適切である。



３７） 図のような、の使用方法は適切である。



３８） の小口の一方が平面で、他方が丸面の形状となっている場合、平面で釘を打ち、丸面の方で最後のひと打ちや木殺しを行うとよい。

３９） の使い方は、柄を長く持ち、肩・肘・手首を支点にして回転力で振り下ろすが、強く打ちたい場合には、手首のスナップで打つとよい。

４０） 板材を打ち付ける場合の釘の長さは、板厚の2.5～3倍を標準とし、打ち付ける箇所が木口面や軟材の場合は、4～5倍とするとよい。

解答用紙

筆記課題「大工用工具の取扱い」

1問2点

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 入所年月 | 番号 | 氏名 | 合計点 | 評価判定 |
| 平成　　年　　月入所 |  |  | ／100 |  |

評価判定基準　Ａ：80点以上 「到達水準を十分に上回った」

Ｂ：60点以上80点未満 「到達水準に達した」

Ｃ：60点未満 「到達水準に達しなかった」

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|  |  |  |  |  |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|  |  |  |  |  |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
|  |  |  |  |  |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
|  |  |  |  |  |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
|  |  |  |  |  |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
|  |  |  |  |  |
| 31 | 32 | 33 | 34 | 35 |
|  |  |  |  |  |
| 36 | 37 | 38 | 39 | 40 |
|  |  |  |  |  |